

さがみはらしなんばー185 いせき

相模原市No.185 遺跡

(相模原市No.185 遺跡)

調査期間 20070918～継続中

所在地 相模原市当麻

時代

旧石器
縄文
古代
中・近世以降



更新日:20071016

概要

相模原市No.185 遺跡では、国土交通省横浜国道事務所に
よるさがみ縦貫道路建設事業に伴う、事前の埋蔵文化財発
掘調査を行っています。

遺跡は南方に流れる相模川の河成段丘上(相模野台地
みなはら^{やぜ}
陽原面)に立地し、北には八瀬川が流れています。調査
区は国道129号線と国道に架かる市道当麻・市場線谷原橋
で4箇所に分断されており、北東地区をA区、北西地区をB
区、南東地区をC区、南西地区をD区と呼称し、調査を行っ
ています。

昭和48年～50年にかけて、現国道129号線建設時に当
麻遺跡第1～3地点として調査が行われており、今回の調査
区は当時の当麻遺跡第1地点の東西両脇の調査となりま
す。当時の成果としては、奈良・平安時代の竪穴住居址10
軒、掘立柱建物址1棟、中世の地下式坑1基が発見されてお
り、今回の調査でも同様な遺構群の広がりが想定されていま
した。



▲A区 H1号竪穴住居



▲B区 旧石器時代礫群検出状況

現在までのところ、A区で奈良・平安時代の竪穴住居址3軒、円形土坑2基、近世以降の溝状遺構や畝跡などが発見されています。B区の北半では後世の削平によりローム層まで土が削られており、先行して旧石器時代の調査を行ったところ、L1H層から石器群及び礫群が発見されました。C区は表土掘削を終了したばかりですが、やはり奈良・平安時代と思われる竪穴住居址、溝状遺構、近世以降の畝状遺構や長方形土坑など耕作址と思われる遺構が多数確認されています。



▲C区 近世～古代面全景(遺構確認)